

# ビワ生育情報

第 1 報  
千葉県農林水産部  
令和 4 年 1 0 月号

「楠」、「田中」の花房発現期は平年並み、「大房」はやや早いです。  
10月からは摘房・摘蕾を行います。適期に作業し、品質の揃った果実を生産しましょう。

## 花房及び樹の発育

花房の発現期は表1のとおりである。「楠」は9月14日で、平年より2日、前年より3日早かった。「大房」は9月15日で、平年より4日早く、前年より2日早かった。「田中」は9月14日で、平年及び前年より1日早かった。「楠」、「田中」の花房発現期は平年並み、「大房」はやや早い。花房数は平年より多い傾向のため、摘房による花房数の調整が重要である。

夏枝及び秋枝の発生は平年並で、樹の生育は順調である。

表1 花房発現期（暖地園芸研究所）

品種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.14	9.16	9.17
大房	9.15	9.19	9.17
田中	9.14	9.15	9.15

平年：1992年～2021年の30年間の平均

## 令和4年7～9月の気象

令和4年7～9月の気象を表2に示した。7月の月平均気温は25.6℃で、平年より1.0℃、前年より0.6℃高かった。降水量の月合計は198mmで、平年の108%、前年の56%であった。日照時間の月合計は189時間で、平年の105%、前年の91%であった。

8月の月平均気温は26.3℃で、平年より0.3℃高く、前年より0.1℃低かった。降水量の月合計は94mmで、平年の85%、前年の45%であった。日照時間の月合計は206時間で平年の95%、前年の104%であった。

9月の月平均気温は24.1℃で、平年より1.2℃、前年より1.9℃高かった。降水量の月合計は139mmで、平年の60%、前年の70%であった。日照時間の月合計は158時間で平年の103%、前年の126%であった。

表2 令和4年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	25.5	23.4	21.9	22	42	349	28	23	3
	2	24.3	23.4	24.7	1	41	5	20	26	14
	3	24.0	24.7	24.7	72	36	3	12	28	30
	4	25.5	24.7	26.0	92	21	0	21	30	54
	5	26.5	25.1	26.1	8	21	0	42	32	60
	6	27.6	25.9	26.1	5	23	0	65	42	46
平均/計		25.6	24.6	25.0	198	184	357	189	179	207

8	1	26.7	26.2	27.1	5	6	0	37	37	49
	2	27.1	26.3	26.8	0	19	116	49	37	31
	3	26.9	26.3	24.7	62	19	63	38	36	9
	4	26.2	26.0	25.1	13	20	32	36	35	35
	5	26.2	26.0	26.6	0	20	0	20	34	24
	6	25.1	25.5	27.6	15	27	0	26	38	52
平均/計		26.3	26.0	26.4	94	110	210	206	218	198
9	1	25.6	24.7	21.8	14	16	54	31	30	2
	2	25.9	24.5	21.2	0	57	47	29	29	20
	3	24.7	23.5	23.2	0	25	53	33	27	15
	4	25.3	22.8	22.5	39	48	33	18	25	29
	5	21.8	21.4	23.7	66	46	3	9	22	39
	6	21.6	20.6	20.6	20	41	10	39	21	22
平均/計		24.1	22.9	22.2	139	232	198	158	153	125

表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

## 11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

### 摘房・摘蕾

10月から11月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では最終的な着果率（全ての枝に対して果房が着生する枝の割合）が約60%になるように調整する。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝（花房の枝）の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を延長することができる。開花期が延長することによって寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

### アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシはビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので、短期間のうちに甚だしい落葉を見ることがある。また、排泄物はすす病を誘発するため、樹勢が著しく低下する場合もある。防除は発生状況を見て随時行う必要があるが、発生初期が効果的である。11月にはナシなどからアブラムシが移り、繁殖期に入るので、この時期の防除は重要である。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>